

主 題：交渉の余地なし 4  
 聖書箇所：申命記 10章12-13節

先週、学びをしていたとき、このような記事をインターネット内で見つけました。あなたの人生は次の二つのことばをどのように関連づけるかによって決まると言っています。一番目のことばは「**もしだれかが罪を犯したなら、私たちには、御父の御前で弁護してくださる方がいます。それは、義なるイエス・キリストです。**」Iヨハネ2：1のことばです。もう一つのことばはヨハネの福音書5：14に記されています。「**その後、イエスは宮の中で彼を見つけて言われた。「見なさい。あなたはよくなった。もう罪を犯してはなりません。そうでないともっと悪い事があなたの身に起こるから。」**）。この二つのことばをどのように関連づけるのか、それがあなたの人生を決めるものであると、これはクリスチャンに向けて書かれていた記事でした。この著者が言わんとしていることは、もし、私たちが罪を犯したときに「**御父の御前で弁護してくださる…義なるイエス・キリスト**」をもっているとするなら、その方が横におられるゆえに、「**もう罪を犯してはなりません**」という命令を与えられていたとしても、弁護士がいるから大丈夫だと思って生きるのか、それとも、罪を犯したとき私たちが弁護してくださるイエス・キリストがいるからこそ、私たちは主が言われるように、出来る限り罪を犯さないで主に従って生きて行こうとするのか、あなたはどちらの道を行っていかれますかと、そのような問い掛けでした。皆さんはどちらですか？イエスが私たちの罪を贖って死んでくださってその赦しをもうすでに与えてくださったゆえに、よかった、これからどんな罪を犯してももう大丈夫と思って生きているのか、それとも、その方がおられるゆえに、これから主が言われるように出来る限り罪を犯さないように生きて行こうと心に決めて生きようとするのか？確かに、私たちは神に従順であることに失敗し罪を犯します。私たちは誘惑に陥り神が命じる命令を守ることができないことがあります。それゆえに、私たちが確かにキリストを私たちが弁護してくださる方と持っていることは、私たちにとって大きな慰めであり励ましであり、それに心を落ち着かせることができます。けれども、私たちが弁護してくださる方、義なるイエス・キリストをもっているということは、私たちがこれからも継続して罪のうちを留まってもよいということを教えているのでしょうか？パウロはローマ人への手紙6：1-2でこのように言っています。「**それでは、どういうことになりますか。恵みが増し加わるために、私たちは罪の中にとどまるべきでしょうか。：2 絶対にそんなことはありません。罪に対して死んだ私たちが、どうして、なおもその中に生きていられるでしょう。**」と、救われて罪赦されたクリスチャンは、たとえ、私たちが弁護してくださる方がいたとしても、安心して罪を犯すことができるとして生きるのではなく、罪からできる限り離れて生きて行こうと、そのように願って生きる者です。この著者が言ってこの二つのことばをどのように関連づけるのか、そのことは非常に重要な質問です。私たちはこれまでもこの瞬間も神に従順に従い罪を犯すことなく生きて行きたいと心から願い、そのような生き方を実践して行こうとするのか、それとも、弁護してくださる方がいるから少しくらい気を抜いても大丈夫だと思って生きているのか、そのどちらなのかを問い掛けなければいけないのです。

今朝、皆さんといっしょに考えたいことはまさにその疑問に対する答えでもあります。これまで申命記10章12-13節のところから、私たちが神が私たちに要求する五つの事柄を見てきました。今日はその5番目です。

☆神が私たちに要求すること

5. 神に従う 13節

この申命記10章からメッセージをしようと考えたとき、3週間くらいで10：12-22までを学ぶことができると思ったのですが、進めて行くうちに、一つ一つの事柄が余りにも大切なゆえに、今回で4回目ですが、時間を要しました。学ぶほどにここで教えられていることは私たちにとって非常に大切なことであると気づかされて行きました。それゆえに、可能な限り、皆さんとともに時間をかけてこの箇所を注意深く理解して行きたいと思えます。私の心からの願い、また、祈りは今日皆さんといっしょに「**主に従う**」という神の5番目の要求をしっかりと理解することを通して、皆さんが「私は確かに罪赦され、私には私を弁護してくださる方がいるゆえに、今、この瞬間から神の前に私の生涯をかけて、従順に神の命令を守り、罪を犯すことなく生きて行くことに専心します」と言って今日この場を出て、それぞれの生活へと戻って行かれることです。

申命記10：12-13を読みます。「**イスラエルよ。今、あなたの神、主が、あなたに求めておられることは何か。それは、ただ、あなたの神、主を恐れ、主のすべての道に歩み、主を愛し、心を尽くし、精神を尽くしてあなたの神、主に仕え、：13 あなたのしあわせのために、私が、きょう、あなたに命じる主の命令と主のおきてとを守ることである。**」、これまで私たちが神が私たちに要求している四つの事柄を見て来ました。非常

に単純なだれでも理解することができる事柄でした。1. 神を恐れなさい、2. 神に従いなさい、3. 神を愛しなさい、そして、4. 神に仕えなさいというこの四つを見て来たのです。その5番目として私たちが今日考えるのは「私たちが神に従うこと」です。2番目に出てきた「主に従う」、「**主のすべての道に歩み**」というそのこととこの5番目のことは近い概念をもっています。けれども、2番目のところでも話した通り、それは私たちがどのような生き方をして行くのかということでした。ライフスタイルのことです。それに対して、この5番目で教えられていることは、私たちが一つ一つの神が語ることばに対してどのように対応し、どのように生きて行くのかということが問われているのです。別の言い方をすれば、実際に、神が求めていることをするかしないかということです。ここで使われている「守る」ということばは「細心の注意を払う」と訳すことができることばです。私たちがほんの小さなことであつたとしても、決して守らないということが起こらないように、細心の注意を払って神の命令を守って行こうとする、その姿が現わされています。どんな事柄でも神が言っている通りに生きることができるようにと言います。

では、いったい何を守るのでしょうか？モーセは「**あなたに命じる主の命令と主のおきて**」と言います。二つの違うことばが使われており、意味していることも少し違うのですが、この二つのことばがいっしょに使われているときに私たちにはっきり分かることは、これは神が私たちに命じているすべてのことを含んでいるということです。それを細心の注意を払って守りなさいと、そのように教えています。このことばにモーセがさらに加えているのは「**あなたに命じる**」ということばです。具体的に何のことでしょう？最も小さい単位で考えるなら、これは申命記5章から26章に記されているモーセが命じるあらゆる事柄です。それがモーセがイスラエルの民に向かって語った2番目の説教の内容であるからです。けれども、この申命記を通して見たとき、この「**主の命令と主のおきて**」ということばは他のところでも使われています。それは単に5-26章の命令を守りなさいということではなく、私が語っている神が命じている命令をあなたがたはすべて守らなければいけないということです。イスラエルの民は、出エジプトをしてから最初にシナイ山に連れて行かれました。シナイ山で神は彼らに契約を与え彼らに命令を与えたのです。それを守ることによって、彼らが確かに約束の地へと入り、そこを占拠しそこで幸せに生きるために…。しかし、残念ながら、第一世代のイスラエル人たちはその神の命令に従うことをしないで、神に逆らうことをしたゆえに、荒野での放浪を強いられました。今、その第一世代がすべて死に絶え、新しい世代の人たちに向かって、モーセはもう一度律法を与えたのです。彼らが今まさに、ヨルダン川を越えて約束の地に入ろうとするときに、彼らがはっきり神が求めていることが何なのかを知り、それを正しく守ることによって、彼らが神の約束を受ける者としてこの地へと進んで行くことができるようになるためでした。

モーセはさらに加えます、「**あなたのしあわせのために**」と。これがこの「**主の命令と主のおきてとを守ること**」の理由だったのです。ここで使われている「**しあわせ**」ということばは「最善である、良いことである、幸福である」と訳すことができます。つまり、モーセがここで言っていることは、もし、あなたがたが神の命令に従うなら、それはこのイスラエルの民にとって最善をもたらすことだ、それゆえに、あなたがたはしっかり命令を守りなさいということです。モーセの契約を私たちが旧約聖書から見ると、そこには様々な具体的な祝福が付随しています。たとえば、先ほども言ったように、モーセの契約をイスラエルの民が従順に守るなら、ヨルダン川を越えて約束の地に入ったときに彼らは勝利を収めます。約束を守り神の契約に従って生きるときに、イスラエルの民はそこに住んでいるカナン人たちを滅ぼし、その地に永住することができるようになります。契約を守って正しく歩んで行くときに、人々は神からの具体的な祝福を得、そこには様々な具体的な肉体的、物質的の祝福が与えられます。彼らの齡(よわい)は長くなり、彼らには様々な財産が与えられ、彼らの生涯は潤ったものとしてこの地上での祝福を受けると、神はモーセの契約の中でイスラエルの民にそのように約束しているのです。あなたがたが従順であるなら…と。それゆえに、モーセはこの申命記後半でこのようなことを言います。28:1-2「**もし、あなたが、あなたの神、主の御声によく聞き従い、私が、きょう、あなたに命じる主のすべての命令を守り行なうなら、あなたの神、主は、地のすべての国々の上にあなたを高くあげられよう。:2 あなたがあなたの神、主の御声に聞き従うので、次のすべての祝福があなたに臨み、あなたは祝福される。**」、あなたが命令を守るならわたしはあなたを祝福すると神は言われ、そして、具体的な祝福が3-14節に列挙されています。すばらしい物質的な祝福がモーセの契約には付いていたのです。同時に、15節を見てください。

「**もし、あなたが、あなたの神、主の御声に聞き従わず、私が、きょう、命じる主のすべての命令とおきてとを守り行なわないなら、次のすべてののろいがあなたに臨み、あなたはのろわれる。**」とあります。そして、そののろいが16節以降に列挙されています。従順に基づく物質的な祝福、肉体的祝福はモーセの契約に付随するものでした。同時に、それに従わないときに物質的、肉体的さばきがイスラエルの民に与えられることが約束されていたのです。けれども、これは今日生きるクリスチャンたちにとって、同じように適

用することではありません。なぜなら、新約聖書のどこにも、私たちクリスチャンが神が従順であるなら、肉体的、物質的な祝福を受けるとは教えられていないからです。私たちがどれほど神に従順であっても、私たちは健康を得たり財産を得たり名誉、地位を得たりすることは約束されていません。むしろ、クリスチャンが神に従順に、主の前に敬虔に生きるなら、何が与えられるでしょう？Ⅱテモテ3：12に「確かに、キリスト・イエスにあって敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます。」と記されています。旧約の時代のイスラエルの民には、彼らが従順に生きるときにはすばらしい祝福が、不従順ならきびしいさばきを与えられることが約束されていました。新約のクリスチャンたちに対しては、私たちが神に従順であるからといって、同じような祝福が与えられることはないのです。けれども、確かに、祝福は旧約の信徒にも新約の信徒にも与えられます。物質的、肉体的祝福ではなくても、明らかに霊的な祝福が与えられているのです。

たとえば、詩篇119：1-2にはこのように書かれています。「幸いなことよ。全き道を行く人々、主のみおしえによって歩む人々。：2 幸いなことよ。主のさとしを守り、心を尽くして主を尋ね求める人々。」と、神の律法を守り神のおきてに耳を傾けそれを実践して生きる人たちは、何と幸いなのだろうと宣言しているのです。詩篇19：10-11ではみことばに関してこのように言います。「それらは、金よりも、多くの純金よりも好ましい。蜜よりも、蜜蜂の巣のしたたりよりも甘い。：11 また、それによって、あなたのしもべは戒めを受ける。それを守れば、報いは大きい。」と。みことばが私たちに多くの戒めを与えます。そして、私たちがそれに耳を傾け実践するなら、「報いは大きい」、豊かな報酬を受けると言うのです。旧約聖書だけではありません。ヤコブの手紙1：25を見ると「ところが、完全な律法、すなわち自由の律法を一心に見つめて離れない人は、すぐに忘れる聞き手にはならないで、事を実行する人になります。こういう人は、その行ないによって祝福されます。」とあります。キリストが命じていることを「一心に見つめて離れない人は」、神がキリストを通して私たちに命じていることを実践する、そして、「こういう人は、その行ないによって祝福されます。」というのです。イエスはヨハネの福音書13：14-17でこのようなことを語っておられます。イエスが弟子たちの足を洗われた後弟子たちに向かって言われたことです。「それで、主であり師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのですから、あなたがたもまた互いに足を洗い合うべきです。：15 わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしはあなたがたに模範を示したのです。：16 まことに、まことに、あなたがたに告げます。しもべはその主人にまさらず、遣わされた者は遣わした者にまさるものではありません。：17 あなたがたがこれらのことを知っているのなら、それを行なうときに、あなたがたは祝福されるのです。」と、イエスが模範として私たちに求めたことを私たちが知っているなら、それを行なうとき、守るとき、実践するとき、「あなたがたは祝福されるのです」と言います。みことばに対する従順には祝福が伴います。これは旧約聖書においても新約聖書においても変わる事のない真理です。確かに、申命記の中に書かれている多くの祝福は私たちに直接的に適用しません。もう少し、分かりやすく説明しましょう。皆さんが今、神の命令に従順に従ったからといって、私たちがこれからイスラエルに行ってイスラエルの地を治めることはありません。それはモーセの契約に約束されていることです。でも、私たちはイスラエルではないから、私たちがどれほど契約を守っているとしても、イスラエルを攻めて占拠することなどありません。なぜなら、その契約は神がイスラエルの民と交わしたものであって、私たちと交わしたものではありません。

実は、神がイスラエルに与えようとする実際的な、具体的に目に見ることができずばらしい祝福の一つを、私たちは実際に、今、この瞬間も体験することができるのです。それは健康ではありません。それは富でもありません。土地でもありません。それは、この地上において神をはっきりと人々に示すというすばらしい特権です。イスラエルの民に神が与えておられた最も大きな働き、それはイスラエルがこの世と神との間に立つ仲介者となることでした。そして、人々が神がだれなのかを確かに知るようになるために、神はその働きをイスラエルの民に与えていたのです。モーセは申命記5：4-8でこのようなことばを記しています。「見なさい。私は、私の神、主が私に命じられたとおりに、おきてと定めとをあなたがたに教えた。あなたがたが、はいつて行って、所有しようとしているその地の真中で、そのように行なうためである。：6 これを守り行ないなさい。そうすれば、それは国々の民に、あなたがたの知恵と悟りを示すことになり、これらすべてのおきてを聞く彼らは、「この偉大な国民は、確かに知恵のある、悟りのある民だ。」と言うであろう。：7 まことに、私たちの神、主は、私たちが呼ばれるとき、いつも、近くにおられる。このような神を持つ偉大な国民が、どこにあるだろうか。：8 また、きょう、私があなたがたの前に与えようとしている、このみおしえのすべてのように、正しいおきてと定めとを持っている偉大な国民が、いったい、どこにあるだろう。」、神が命じられた命令を守り行なうときに、人々はその従順なイスラエルの民を見て「何とすばらしい民だろう、何と偉大な国民だ」と言い、その偉大な国民として立てておられるこの民の神は何とすばらしい神なのだろうと、彼らが目を向けるというのです。出エジプト19章で、イスラエルの民がシナイ山によろやく到達したときに、神は契約を結ぶに当たって彼らに一つの条件を示されました。その中で、神はこのように言われます。19：5-6「今、もしあなたがたが、まことにわたしの声に聞き従い、わたし

の契約を守るなら、あなたがたはすべての国々の民の中であって、わたしの宝となる。全世界はわたしのものであるから。:6 あなたがたはわたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。これが、イスラエル人にあなたの語るべきことばである。」と。あなたがたがわたしの命じる命令を守り行うなら、全世界の国民の中で「わたしの宝となる」、あなたがたは彼らとわたしをつなぐ祭司の役割をすると、これこそがまさに神がイスラエルの民に与えておられた働きだったのです。この箇所は、私たちクリスチャンにとって非常に深い関係をもつ箇所です。なぜなら、ペテロはペテロの手紙第一でこの箇所を引用して、私たちクリスチャンに直接的に適用するからです。それは私たちがこの地上において、この世にあって、神を代表する、神とこの世との仲介者となり祭司の働きをするために、絶対に必要な前提条件なのです。なぜなら、神のみことばに従うことによって私たちは神に似た者へと変わって行くからです。神が求めることを私たちが実践して行くとき、私たちは神の特徴を備える者へと変わって行くからです。別の言い方をするなら、私たちが神が求めることを行なうと、私たちはキリストに似た者へと変わって行くということです。私たちの人生が、神がいかにすばらしいお方なのか、いかに偉大な方か、正しく、いかに聖く、いかに愛にあふれ、真実の主権者であるのかを示すというのです。

レビ記19章を見てください。今、私が言ったことが最も顕著に記されているのがこの章だと思えます。レビ記は大きく二つに分けることができます。前半部分はどうのように神に近づくことができるのかということ。そして、この19章が含まれる後半部分はいったいどのようにしてそのような聖い生き方をして行くことができるのか、その具体的な方法について記しています。ですから、後半は私たちに大きくの律法を教えます。神の命令が記されています。そこにこのようなことばがあります。19:2「イスラエル人の全会衆に告げて言え。あなたがたの神、主であるわたしが聖であるから、あなたがたも聖なる者とならなければならない。」ここで私たちは19章以降、神が求めて行く様々な命令に関して、その要約を見ることができます。神が私たちに求めていること、それは神ご自身が聖であるからその神の民である私たちは聖でなければならぬと、このことを神は告げるのです。なぜなら、私たちがどのように生きるのかということ、つまり、具体的な律法の一つ一つの命令はすべてここに結び付くからです。順に見ていってください。19章、「:3 おおの、自分の母と父を恐れなければならない。また、わたしの安息日を守らなければならない。わたしはあなたがたの神、主である。」「:4 あなたがたは偶像に心を移してはならない。また自分たちのために鑄物の神々を造ってはならない。わたしはあなたがたの神、主である。」「:10 …わたしはあなたがたの神、主である。」「:12 …わたしは主である。」「:14 …わたしは主である。」「:16… わたしは主である。」「:18 …わたしは主である。」「:25…わたしはあなたがたの神、主である。」「:28 …わたしは主である。」「:30 …わたしは主である。:31 …わたしはあなたがたの神、主である。:32 …わたしは主である。」「:34 …わたしはあなたがたの神、主である。」「:36 …わたしは、あなたがたをエジプトの地から連れ出した、あなたがたの神、主である。:37 …わたしは主である。」、なぜ、このように繰り返すのでしょうか？これら一つ一つの命令を私たちが守らなければいけないのは、私たちの神、主が、このようなことを通して私たち自身の生涯をもって現わされるからです。すべての律法、神が私たちに与えるすべての命令は、まさにこの一点に向かっていと言っても過言ではありません。安息日を守ることも、父や母を敬うことも、盗まないことも、真実を告げることも、敵を愛することも、ありとあらゆることは、それを行なうことによって神の特徴を私たちが身に備えるからです。

モーセはこの「神の聖さ」に関する概念をレビ記11:44-45で紹介しています。その文脈は「何を食べていいのか、何を食べてはいけないのか」ということ、特に、ここでは「地をはうものは食べてはいけない」と言っています。なぜ、地をはうものを食べてはいけないのでしょうか？その理由が記されています。「:44 わたしはあなたがたの神、主であるからだ。あなたがたは自分の身を聖別し、聖なる者となりなさい。わたしが聖であるから。地をはういかなる群生するものによっても、自分自身を汚してはならない。:45 わたしは、あなたがたの神となるために、あなたがたをエジプトの地から導き出した主であるから。あなたがたは聖なる者となりなさい。わたしが聖であるから。」と、それは他の国々の人たちとイスラエルの人たちが全く異質の民であることを明確に現わしたのです。イスラエルの民は神の民であるゆえに、他の国々の人たちとは全く違う存在だと言うのです。それゆえに、私たちが命令を守ることは重要なのです。なぜなら、命令を守ることを通して私たちは神の特徴を身に付け、神がいかに聖くいかに義であり、いかに愛をもち正しい方であるのかをすべての人に示すからです。イスラエルの周りにいたあらゆる国民は、イスラエルを見るたびに、イスラエルの人たちと関わりを持つたびに不思議に思いました。どうして、この人たちは土曜日に仕事をしないのか？どうしてこの人たちは私たちが食べる食べ物を食べないのだろうか？どうしてこの人たちは偶像を礼拝しないのだろうか？どうしてこの国には神と名の付くものが立っていないのだろうか？どうしてこの人たちはこのようにいけにえを捧げるのだろうか？どうしてこの人たちはこのように互いに接し合うのだろうか？と、彼らが神の律法に従順に従って生きているから皆がそのように思ったのです。そのとき、イスラエルの民は「私たちが土曜日に仕事しないのは、私たちがそのようなも

のを食べないのは、私たちが偶像を拝まないのは、私たちがこのようにお互いに接し合うのは、私たちの神がこのことを命じ、私たちの神がこれほど偉大な方だからです。」と言います。人々はその証を通して神がどんな方なのかを明確に知っていったのです。彼らが神の命令に従順に生きるとき、彼らは確かに私は神の民であるというしるしを身にまもって生きていたのです。どこから見ても彼らが神の民であることは明らかでした。なぜなら、人生が違うから、生きる方向が違うから、生きて行くその一つ一つの歩みが違うからです。そのようにして彼らが神の聖さ、神の義、神の主権を現わして生きて行くとき、彼らが神の命令に従って生きて行くときに、神は彼らを大いに祝し、彼らを用いて、神がいかにすばらしい唯一真の神であるのかを、闇に満ちたこの世にあって明確に示しておられたのです。

今の私たちも同じ祝福を受けることができます。先ほども言ったように、ペテロは出エジプト記 19章のことばを教会に適用しています。I ペテロ 2：9「**しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。**」、ペテロはここでははっきり言いました。私たちはこの地上にあって「**選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民**」だと、私たちの働きは神の聖さを現わし、この地上に対して祭司の働きをすることだったのです。彼らを神のみもとに連れて行き神の贖いのわざを告げ知らせ、彼らがそれを受けることができるように、模範として生きることでした。ペテロはこのようすばらしい祝福を受けるようになった目的をはっきり告げていたのです。「**あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。**」と、ここで使われている「**宣べ伝える**」ということばはめずらしいことばで新約聖書ではここにだけしか使われていません。これは「公開する、出版する」という意味で、これまで神のすばらしい、神の偉大さ、神のもっている道徳的なすばらしさ、それらが含まれるのですが、それらは非公開のものでした。まだ、公に目に触れられていなかったのです。でも、あなたがたは神によって選ばれ、神の祭司の国民となり、神に仕える者となったゆえに、今まで公にされていなかったものを、今出て行ってそれを公開しなさい、あなたがたが告げ知らせなさいと言うのです。それがクリスチャンの役割であり、神が私たちを選び、今ここに置かれている理由なのです。私たちは神のすばらしさを身に付ける者になったからです。私たちは救われた瞬間から神に喜ばれる人生を歩んで行きたい、私の目標はキリストに似た者になることだと願います。そうであるゆえに、私たちはこの神のすばらしさを人々に公開することができます。神の民になったゆえに私たちは神の特徴を身に付けて生きることができるようになります。みことばを実践して行くときに、神の命令に耳を傾けそれに従順に従って行くときに、まさにそれこそが神の栄光をこの地上において現わす方法なのです。それゆえに、イエスはこのようなことを言われたのです。「**このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行ないを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。**」(マタイ 5：16)、私たちが光の子となったゆえに、この世の光であるゆえに、その光を輝かせて生きると言うのです。どのようにして？私たちが「**良い行ない**」をするからと。この「**良い行ない**」とはどんな行ないでしょう？簡単に言うなら、神が命令することを実践するということです。なぜなら、何が良いか悪いかを決めるのは神だからです。それによって「**天におられるあなたがたの父を**」世の人が「**あがめる**」、私たちの「**良い行ない**」が、私たちの従順な生涯が神のすばらしさを人々の前で明らかにするからです。クリスチャンにとって、従順はオプションではありません。してもしなくても構わないことではないのです。なくてはならないことであり、クリスチャンであるなら、神の民であるなら、意図的に神の命令を無視して生きることはいけません。できないはずですが。ヨハネは冗談でこのように言っているではありません。彼はクリスチャンとはどのような人物ですか？という質問に対してこのように答えます。I ヨハネ 2：3-6「**もし、私たちが神の命令を守るなら、それによって、私たちは神を知っていることがわかります。：4 神を知っていると断言しながら、その命令を守らない者は、偽り者であり、真理はその人のうちにはありません。：5 しかし、みことばを守っている者なら、その人のうちには、確かに神の愛が全うされているのです。それによって、私たちが神のうちにいることがわかります。：6 神のうちにとどまっていると言う者は、自分でもキリストが歩まれたように歩まなければなりません。**」と、皆さんこのような生き方をしていますか？ここにおられる多くの方が「私はクリスチャンです」と告白されるでしょう。その皆さんにはすばらしい祝福が与えられています。何よりもすばらしい祝福だと言ってもいいのは、それは永遠のいのちを与えられていることではないでしょう、私たちのような汚れて滅びに至ることが当然の者が、神の栄光を現わすことができる者になっていることです。私たちの生き方を通して人々が神を見ると言うのです。私たちが正しく神に従順に歩んでいるときに、人々は神を称えるというのです。それが私たちクリスチャンに与えられているすばらしい特権です。私にはそれ以上の特権は考えられません。そして、そのような特権を与えられているゆえに、願わくは、自分のありとあらゆる力を尽くして神が求めることを実践することによって、神の栄光が現われる生き方をして行きたいと切望します。

なぜ、この事柄を今朝これだけ時間をかけて一生懸命皆さんにお伝えしたのか、クリスチャンであるならこれは避けて通れないことなのです。しなければいけないこと、して当然のことなのです。神に従順であること…。けれども、余りにも多くのときに、私たちはこのことを聞くことを忘れ、このことに思いを留めることを忘れるのです。ここで言われていることは、他の四つの要求と同じように複雑なことではありません。神を恐れることも、神のすべての道を歩むことも、神を愛することも、神に仕えることも、そして、神に従うことも理解するのに難しいことではありません。けれども、私たちは今でも昔と同じように言っているのかもしれませんが。私は私がしたいと思うことをすると…。たまたま、それが神が求めていることと同じなら喜んでします。でも、それが違うときは私はしたくないと言います。けれども、救われた者が考える考え方はこうです。今までは確かに私がしたいと思うことをしませんが、救われたゆえに、私は神が私にしなさいと求めることをしたいと思えます。皆さん、そのような思いをもって生きて行こうとしておられますか？私たちはそれを義務的にするものではありません。無理やり押し付けられていやいやながらするのではありません。なぜなら、そのように従順に従って生きなければならないことは、私たちはよく理解しているはずで、神が神であると知っているから当然のこと、それ以外は考えられないと思っているのです。それを認めて、確かにその通りですと心から同意して行なうのです。神は神で、私たちは神ではないから、主は主権者で私たちはその主の奴隷だからです。それだけではありません。私たちは神がほめ称えられることを心から望むからです。人々が神が神だと認めて、神の栄光を称えてほしいと願います。だから、私たちは一生懸命神の命令に従いたいと願うのです。そして、何よりも私たちは神を愛しているからです。イエスは弟子たちにこのように言われました。ヨハネ14：15「もしあなたがたがわたしを愛するならば、あなたがたはわたしの戒めを守るはずで。」と、イエスを愛する者はイエスが求めることを心から行なうと言うのです。

最後に、モーセのことばをもってこの礼拝を閉じたいと思えます。モーセは私よりももっとすばらしい形でこのメッセージを語りました。はっきりと、なぜ私たちが主に従わなければいけないのか、そして、その神への従順がいかに大切なのかということをお人々がはっきり理解するために、最後にこのようなことを言います。申命記30：15-20、これが今日皆さんに求められていることです。確かに、肉体的、物質的祝福はそこには付随していません。私たちはイスラエルではないから…。でも、同じ従順が求められ、同じ緊迫感をもって、私たちはこれを受け入れなければいけません。「15 見よ。私は、確かにきょう、あなたの前にいのちと幸い、死とわざわいを置く。16 私が、きょう、あなたに、あなたの神、主を愛し、主の道に歩み、主の命令とおきてと定めとを守るように命じるからである。確かに、あなたは生きて、その数はふえる。あなたの神、主は、あなたが、はいつて行って、所有しようとしている地で、あなたを祝福される。17 しかし、もし、あなたが心をそむけて、聞き従わず、誘惑されて、ほかの神々を拝み、これに仕えるならば、18 きょう、私は、あなたがたに宣言する。あなたがたは、必ず滅びうせる。あなたがたは、あなたが、ヨルダンを渡り、はいつて行って、所有しようとしている地で、長く生きることはできない。19 私は、きょう、あなたがたに対して天と地とを、証人に立てる。私は、いのちと死、祝福とのろいを、あなたの前に置く。あなたはいのちを選びなさい。あなたもあなたの子孫も生き、20 あなたの神、主を愛し、御声に聞き従い、主にすがりなさい。確かに主はあなたのいのちであり、あなたは主が、あなたの先祖、アブラハム、イサク、ヤコブに与えると誓われた地で、長く生きて住む。」、モーセのように十分ではありませんでした。でも、私も今日皆さんの前に「いのちと死」を「祝福とのろい」を置きました。皆さんに心から勧めることは、モーセが言うように「あなたはいのちを選びなさい。」ということです。主に従順に、主の命令に従って、神のすばらしさを現わすクリスチャンの生き方を、皆さん、ぜひ、いっしょに行きましょう。